

昨年度のうちに、「シン・学校応援団」を掲げ、学校運営協議会の方々と取組を協議してきました。

子供たちにしてあげたいことが溢れる中で、満を持して、思いを一つ一つ形にしていく時期になりました。

是非、本校の指針「すべては子供たちの『幸せ』のために」の実現に向け、気持ちを共有したいと願い、このように記しました。

想い、願い、祈り

長く心に留めている挿話があります。

それは、作家で政治家の故石原慎太郎氏が、弟で昭和の大スター石原裕次郎が解離性大動脈瘤で倒れ、3～5%という絶望的に低い成功率の大手術を終えたばかりの頃のことを自身の著書「弟」の中に記したものです。

彼は、術後、死と隣り合わせにある、予断を許さない状況にある弟を見舞った帰り、病棟の庭で思いがけずある光景に出くわします。弟のいる8階の病室に向かって地上から手を掲げ続けて想念を送り、あるいは合掌して何かを唱え、懸命に祈っている見ず知らずの多くの人たち。

彼はその時、「ああ、これであいつ（弟）は助かるな」と、何故かしみじみと思ったといえます。そして実際、この大スターは様々な後遺症を背負いながらも完璧に蘇生し、約2か月後、ブラウン管に元気な姿を見せるのです。

彼は、弟の奇跡の成功に向かって強く促してくれたのは、医師たちの努力よりも何よりも、信じられぬほど多くの人たちの想念の力だったに違いない、というように記しています。

このような実体験こそないものの、私も常々、切なる想いや願い、祈りは、何か人に大きな力を与えることができると信じています。

子供たちが事故なく登校できるようにと、通学路に立ち、子供たちを笑顔で迎え、声をかけ、安全に学校へと導いてくださっている方。

子供たちに喜んでほしいと、花壇に素敵な花々を植え、朝早くから欠かさず水を遣り、温かなメッセージを送り続けてくださっている方。

教室に入れないうが安心して過ごせたり、地域の方々と子供たちが触れ合えたりする場所を作ってあげたいと、工夫を凝らして部屋を整え、明るく飾ってくださっている方。

子供たちに夏の思い出をと、お祭りで子供屋台を企画し、当日、朝早くから準備し、店に立って支えてくださった方。

きれいな学校で2学期初めの子供たちを迎えようと、学校周辺を掃き整えてくださった方。

そういう方々の想念は、必ずや子供たちに届き、子供たちの力になると確信しています。

「すべては子供たちの『幸せ』のために」

——— 4月からこれまで、このことを指針に活動を進めてまいりましたが、まだまだ道半ばです。本日からは2学期には、動きをさらに加速してまいります。

どうか、保護者の皆様におかれましても、幸せに人生を生き抜く力を本校のすべての子供たちがもてるよう、皆様の想いを、願いを、祈りを本校の子供たちに捧げ続けてくださるようお願いいたします。

そして、それらを一つでも多く形にしていく試みに、ぜひともご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。